

令和5年度子ども子育て支援推進調査研究事業  
「入院中の子どもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」の  
報告書及び事例集について

令和5年度子ども子育て支援推進調査研究事業「入院中の子どもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」について、事業実施者(野村総合研究所)より報告書及び成果物(事例集)が提出されました。

- ・ 「入院中の子どもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」報告書
- ・ 入院中の子どもへの付添い等に関する医療機関の取組充実のための事例集

野村総合研究所ウェブサイト

[https://www.nri.com/jp/knowledge/report/lst/2024/mcs/social\\_security/0410\\_8](https://www.nri.com/jp/knowledge/report/lst/2024/mcs/social_security/0410_8)

**【照会先】**

こども家庭庁成育局母子保健課

栗嶋、加藤

(代表電話)03(6771)8030

(直通電話)03(6859)0041

# 令和5年度子ども子育て支援推進調査研究事業 「入院中の子どもへの家族等の付添いに関する病院実態調査」 入院中の子どもに対する付添いに関する取り組み事例等について

## 付添いに関する実態

- ・ 小児の入院が決定した際、子どもの病状等を動機とした上で基本的に付添いをお願いしていた医療機関は、約4割であった。家族等の付添いが難しいがために、入院に至らなかった又は他院への転院調整をするといった対応をとったことのある医療機関もあった。
- ・ 小児の入院患者のうち75%以上に家族が付添っていると回答した医療機関は、6割以上であった。
- ・ 付添いに関する方針や理想とする形については医療機関によるばらつきが大きかった。

## 医療機関と家族とのパートナーシップの形成

- **付添いに関する説明**
    - ・ ほぼ全ての医療機関が付添い時のルール・条件等について説明していた。
    - ・ 一方で、「付添う家族が受けられる支援・サービス」や「付添い家族が行う育児と医療的ケアの範囲に関する説明」を説明内容に含めていた医療機関はそれぞれ5割弱であった。
  - <取組事例>
    - ✓ **患者の家族等に対して入院時に書面やパンフレットを活用し、丁寧な説明を行っている。**
- ⇒ 第2章(2)1 付添いに係るルールや支援に関する事例集 説明 (P8~10)

## 現状と取組事例

- **家族と共同したケア**
    - ・ 約7割の医療機関で、家族の希望や退院後の生活等に備えて、家族と共同して患児のケアを実施していた。
  - <対応事例>
    - ✓ **患者家族の今後の生活を踏まえた看護計画等を作成するとともに、それらを丁寧に家族等に説明し、家族と合意したうえでケアに臨む。**
- ⇒ 第2章(2)2 付添う家族が担える子どもへのサポートや医療機関の職員との役割分担に関する説明 (P11)

## 今後の対応

- ✓ 短期的に取り組みめるものについては、事例集も活用いただきながら、取組をさらにひろげていく
- ✓ 専門職の確保等の中長期的な課題については、今回把握された現状や課題を踏まえ、引き続き支援策を検討する

## 付き添う家族等のケア・配慮

- **付添いの環境 (睡眠)**
    - ・ 8割以上の医療機関で**寝具の貸与**を行っていた。
  - <取組事例>
    - ✓ **近隣の宿泊施設と連携している。**
- ⇒ 事例集 第2章(3)1 睡眠環境の配慮 (P11)
- **付添いの環境 (食事)**
    - ・ 食事については、コンビニでの調達が多く、次いでレストランや食堂であった。**給食(病院食)を提供している**と回答している医療機関も全体の3割程度であった。
  - <取組事例>
    - ✓ **病院食の提供方法として、チケット制や事前申込制などの工夫を行っている。**
- ⇒ 事例集 第2章(3)2 食事環境の配慮 (P11-17)

## こどもの安全・権利について

- **こどもの権利擁護**
    - ・ 約半数の医療機関で、こども自身が付添いや療養環境について意見を言うことができる場や機会を設けていた。
  - <取組事例>
    - ✓ **Child Care Staff (CCS)による研修を行い、こどもの特性を踏まえたコミュニケーションの方法を展開するなどの工夫を行っている。**
- ⇒ 事例集 第2章(1) こどもの権利について (P6~8)
- 事例集 第2章(5) 付添いがないこどもの心情への配慮 (P23)
- **安全性の担保**
    - ・ 入院している小児の安全を確認・確保するための手段としては、モニターの活用その他、**看護師による重点的な見守りや保育士による見守り、巡回頻度の増加、ナースステーションの近くなど目の届くところでの対応、サークルベッドや緩衝マットの使用などといった工夫が挙げられていた。**
    - ・ 人員不足により家族等の見守りの目がないと十分な体制が築けない医療機関もあった。
  - <取組事例>
    - ✓ **小児の安全を確保し見守る体制を手厚くするために、看護補助者等を活用する。**
- ⇒ 事例集 第2章(4) 安全性の確保 (P21-22)

## 相談・支援体制、周辺施設・団体との連携

- **相談・支援体制、周辺施設・団体との連携**
    - ・ 約8割の医療機関で**医療ソーシャルワーカー(MSW)**や**看護師**などと相談できる環境や場を設けていた。
    - ・ 一方で、院外との連携については、付添い家族のために**周辺施設や団体との連携やサービス利用**を行っている医療機関は15%にとどまった。連携を行っているという主な理由としては、連携先がわからないといった回答が多かった。
- ⇒ 事例集 (P18-20)
- 第2章(3)5 院内・院外支援団体等との連携
- 事例集 参考資料集 (P24-27)
- ※ 支援団体等について列挙